

《報道資料》 ページ 1

連邦工科大学に新設された《パテック フィリップ講座》 時計製作技術への新たなチャレンジ

急速に成長するスイス時計工業に新しいハイテク素材と先端的な精密機械技術を提供することを使命として、パテック フィリップは、ローザンヌ連邦工科大学（EPFL）との提携の下、ニューシャテルのマイクロテクノロジー研究所（IMT）に、新しい《パテック フィリップ講座》を創設する。

スイス時計工業のリーダーとスイスの代表的な工学教育研究機関が新たに提携する。パテック フィリップとローザンヌ連邦工科大学（EPFL）は、マイクロテクノロジー、ナノテクノロジーの時計製作への応用を使命とする《パテック フィリップ講座》の創設を発表する。

パテック フィリップは教授および教育研究チームの人件費を負担し、ローザンヌ連邦工科大学は主にインフラ設備を提供する。新しい《パテック フィリップ講座》は、ニューシャテルのマイクロテクノロジー研究所（IMT）に置かれる。マイクロテクノロジー研究所は、2009年からローザンヌ連邦工科大学に編入され、以来、いくつかの新しい研究チームが生まれ、スイス全土の精密機械工業の関係者を結ぶネットワークが生まれたことにより、重要な拠点となるに至っている。ニューシャテルはまた、時計産業の発祥の地であり、数多くの時計メーカーや精密機械工業の集まるジュラ山脈一帯という、地理的にもきわめて有利な立地条件を備えている。この意味で《パテック フィリップ講座》は、民間セクターと教育研究機関との新たな架け橋となるものである。

マイクロテクノロジー研究所（IMT）所長でスイス・エレクトロニクス・マイクロテクノロジー・センター（CSEM）副社長のニコ・ド・ルイジュ氏は《時計工業は急速な成長を続けており、先端的な新技術と新素材の開発がこの業界にとって必要不可欠である。その意味で今回の提携の重要性は大きい》と強調した。スイスにおいて時計工業は5万人を雇用し、160億スイスフランの輸出総額（2010年）を創出している。

多岐にわたる技術革新の可能性

スイス時計工業のパフォーマンスと競争力を維持するためには、技術革新が必要不可欠である。パテック フィリップ技術部長のジャン・ピエール・ミュージー氏は《ムーブメントのエネルギー効率向上、メカニズムと構成部品の小型化、信頼性と連続駆動可能時間の向上など、改良の余地は多い》と語っている。

研究は、構成部品の製造方法、脱進機のみか、歯車や髭ゼンマイなどの構成部品（パフォーマンスを向上、均一化、耐久性向上、組立て工程の容易化）など、すべての製造工程を対象としている。とりわけ重要な方向性が、摩擦の低減、美観、摩耗耐性の観点からのハイテク新素材の開発である。ひとつの例が、数年前から機械式時計製作技術に革命を起こしつつある単結晶の珪素（Si）であり、弾力性により、ムーブメントのパフォーマンスを向上させることのできる特殊な幾何学的形状を実現することができる。

《報道資料》 ページ 2

《パテック フィリップ講座》の担当教授は、以上に述べた多岐にわたる可能性を研究し、チームを結成し、これらの技術革新を自家薬籠中のものとし、改良し推進する研究者と科学者を養成することを使命とする。

《本資料に関するお問い合わせ先》

PP Japan 株式会社

パテック フィリップ ジャパン

A D & P R ディレクター

大塚和泉

電 話：03-5209-8018 (直通)

F A X：03-3256-7558

izumi@ppjapan.com

《ご掲載いただく場合の読者お問い合わせ先》

パテック フィリップ ジャパン・インフォメーションセンター

電 話：03-3255-8109

《パテック フィリップ ホームページ》

<http://www.patek.com> (英語)

EPFL:

Jérôme Grosse, Tel. +41 79 434 73 26, jerome.grosse@epfl.ch

Nico de Rooij, +41 32 720 53 03, nico.derroij@epfl.ch